



マイワシ 太平洋系群

主な漁業と漁期

未成魚・成魚 まき網: 周年
定置網: 周年
マシラス 船曳網: 3月～5月

生態

マイワシは日本に生息する代表的な浮魚で、大規模な資源変動を示すことが知られています。

●分布・回遊

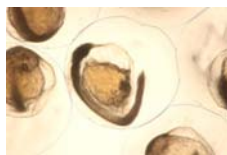
資源の高水準期には日本近海を中心に黄海・東シナ海から日本海全域と北西太平洋に広く分布しています。低水準期には分布が縮小します。

静岡県海域に分布するマイワシは太平洋系群に属しています。太平洋系群の0歳魚は親潮域も含めた北西太平洋の広域に分布します。1歳以上は黒潮周辺の沿岸域で滞留や小規模な索餌回遊するものと、北方へ索餌回遊するものがあります。近年は資源量の増加により、道東沖まで回遊が見られるようになりました。

●産卵期・産卵場

産卵期: 11～翌年6月で、最盛期は2～4月。

産卵場: 近年の産卵海域は、四国沖から関東近海までの黒潮内側域に形成されています。



マイワシの卵

産まれた卵(左)は3日で孵化し、マシラスになります。

産まれてから1ヶ月余り経つと、3cmほどに成長します(右)。



マシラス



大羽イワシ

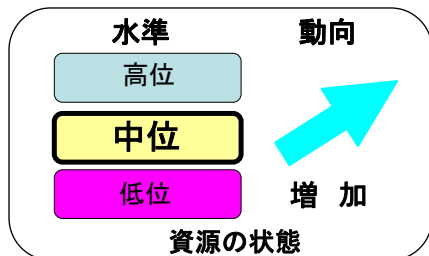
大羽イワシ(被鱗体長20cm、体重100g)には、産まれてから3年ほどかかります(左)。

●成長・成熟

寿命は7歳程度です。資源水準によって成長は異なりますが、平均的には3歳で被鱗体長20cm以上に成長します。近年は1歳で20%、2歳以上で100%が成熟します。

漁業・資源動向

【資源】



- 2019年の資源評価では、太平洋系群の資源水準は中位で、増加傾向にあると判断されています。
- 2010年以降、良好な加入が続き、急速に資源は回復してきました。推定された2018年の資源量は348万トンでした。
- 2018年の親魚量は163万トンと推定され、これ未満の値では良好な加入が期待できない親魚量(22.1万トン)を超えています。現状の漁獲圧は高くなく、資源量・親魚量とも増加する水準にあります。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

ダイジェスト版

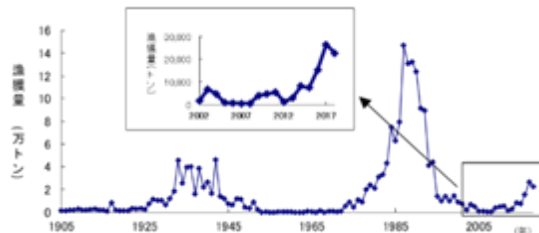
http://abchan.fra.go.jp/digests2019/html/2019_01.html

詳細版

<http://abchan.fra.go.jp/digests2019/details/201901.pdf>

【漁業】

- 静岡県では主にまき網や定置網で漁獲されており、仔魚期はシラス(マシラス)として漁獲されます。
- 県内の漁獲量は1987年にピークを示した後に急減し、1995年以降は低迷していましたが、2009年以降、増加傾向にあります。
- 県内のマシラスの漁獲量は1990年以降に低迷していましたが、2008年からまとまった水揚が見られるようになってきました。



静岡県のマイワシ漁獲量の推移



静岡県のマシラス漁獲量

担当者の一言: 入梅時のマイワシは脂がのってとてもおいしい魚です。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817